



No. 37
2012 Winter

山松舎
臨南寺

隆と国家の安寧を、「宝林」は中国禪宗の名刹・宝林寺に達するという願いが込められています。天福元年（一二三三）の春、竣工落成しました。

坐禅と執筆の日々

興聖寺には日本で初めての坐禅堂が設けられました。施設はまだまだ十分とは言えませんでした。夏の安居も初めて修行されました。安居の終わるころ道元禪師は「普勸坐禅儀」を清書しました。この書は現在国宝とされ永平寺に保存されています。

執筆活動にも意欲的で、この年、大乘仏教の根本理念と言える「摩訶般若波羅蜜」と「現成考案」が執筆されました。これを皮切りにのちに『正法眼蔵』としてまとめられる文章が撰述されていきます。この二編は最初の巻として私たちも読むことができます。

翌年にはのちに道元禪師の後を継ぐ懐契が入門してきます。のちに『正法眼蔵随問記』を著し、道元禪師の説法の数々を今に残すことになる懐契との再会のお話は次回ということにいたします。

特集

道元禪師ものがたり

13



日本で初めて坐禅堂を備えた 禅の根本道場を建てます

安養院での説法も評判に

建仁寺から深草の安養院へ、中国から渡ってきた寂円と一緒に移った道元禪師。正しい坐禅を人々に勧め、正しい仏法を日本中に広めたいという思いは強く、寂円に言われるまでもなく坐禅に打ち込める叢林を建てたいと願っていました。

「坐禅は誰でも簡単にできるが、実際に坐禅しないと悟りは得られない」と説く『弁道話』を中心とした、安養院での説法も評判を呼び多くの人が集まってきました。道元禪師の名声は日を

追うように高まり在俗の信者も次第に増えていきました。六波羅探題の評定衆の一人で鎌倉幕府の重臣の波多野義重もその一人です。九条教家や正覚尼の姿もありました。

九条教家は太政大臣藤原良経の二男で、道元禪師とは母方の松殿家を介して義理のいとこになります。正覚尼は道元禪師の父の久我道親の妹で暗殺された源実朝の奥方だった人です。正覚尼は道元禪師のもとで得度を受け坐禅に打ち込んでいました。

興聖寺を開く

道元禪師の教えを慕って、教えを乞う人々が次々と参集してきました。道元禪師に心服し帰依したいという僧俗が増え、やがて安養院では収容しきれないほどに膨れ上がってきました。

正覚尼や九条教家の尽力により、極楽寺跡の一部に坐禅堂を備えた新しい寺院を開くことを決意します。極楽寺はもともと、九条、松殿両家の祖先の藤原基経が建てた寺ですから、道元禪師ともゆかりの深い寺でした。伏見稲荷の近くにある深草山宝塔寺（現在は日蓮宗）がその遺跡とされています。

まず、極楽寺跡の仏殿や寺坊の修理改築から取り掛かりました。法堂は正覚尼から、須弥壇は九条教家からそれぞれ寄進されました。叢林は「観音導利興聖宝林禅寺」と道元禪師によって命名されました。「興聖」は聖道の興



お正月は 弁財天祈禱会にお参りください

臨南寺では新しい年の初めに、一月十五日午前十時から本堂において弁財天祈禱会を修します。

弁財天様は七福神の一人。特に臨南寺の弁財天様は古くから地域の守護神として、人々の信仰を集めてきました。かつては境内に弁天堂もあり、合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈験あらたかと伝えられています。

弁財天祈禱会では、『大般若波羅蜜多經』を転読いたします。孫悟空の『西遊記』でおなじみの玄奘三蔵がインドから持ち帰り、さらに四年間かけて漢訳したと伝えられる『大般若波羅蜜多經』六巻。古来より大きな靈力を持つと信じられてきたありがたい經典です。

新しい年こそわが国が安らかで穏やかに過ごせますよう、世界中から争いや飢えがなくなります



『大般若波羅蜜多經』を肩に乗せ、皆様の無病息災・家内安全を祈念いたします。

よう祈念します。そして、檀信徒の皆様やご参拝の皆様が無病息災・家門隆盛・家内安全を祈願し、皆様にお礼、お守り、破魔矢をお授けいたします。法要の前に護国寺の会計報告、総代さんのご挨拶があり、法要の後には温かい甘酒の振る舞いもごさいます。

旧年のあれこれに感謝し、新しい年の厄を払い幸せを祈る弁財天祈禱会、ぜひご家族、お友達を誘い合わせてお参りください。

寺景 臨南百景



お釈迦様の

「涅槃図」

涅槃図はお釈迦様がお亡くなりになった時の様子を描いたものです。お釈迦様が亡くなることを「涅槃に入る」と言い、この絵を涅槃図と言います。臨南寺では二月二日からお釈迦様が入滅された二月十五日まで本堂に涅槃図を飾り、十五日には「涅槃会」という法要を行います。お釈迦様をしのびます。臨南寺の涅槃図はいつの時代に制作されたものかはつきりしません。数年前に境内の東洋文化研究所の片隅から発見されました。痛みが激しくていねいに修復されたものです。

沙羅双樹 お釈迦様の周りを囲んでいるのが沙羅双樹です。足元の四本は枯れて、人間や動物だけでなく植物も



臨南寺の涅槃図

悲しんでいることを表しています。頭の四本は青々と茂っています。お釈迦様が入滅されてもその教えは連綿と受け継がれていくことを表しています。

摩耶夫人 右上の雲に乗っているのがお釈迦様の生母、摩耶夫人です。お釈迦様が生まれて七日目に亡くなったと伝えられています。先導しているのがお釈迦様の十大弟子の一人阿那律尊者です。

薬袋 お釈迦様の枕元の樹にかかっている赤い袋は、摩耶夫人がお釈迦様のために天上から投じた薬の入った袋です。「投薬」という言葉はこの故事から生まれたと言われます。

動物たち 涅槃図には嘆き悲しむ動物や虫たちも描かれています。猫はいません。木に引っ掛かった薬袋をお釈迦様のために取りに行こうとしたネズミを猫が邪魔したためと言われています。

住職
日誌

毎日を幸せなお気持ちで

平成二十四年も残すところわずかに
なりました。檀信徒の皆様方におかれ
ましては、いかがお過ごしでしょうか。

臨南寺のカレンダーも最後の一枚とな

りました。そこには大本山總持寺貫首
の江川辰三猥下の筆で「思い邪ま無し」
と記されています。その説明には「邪ま
な思いとは、自己中心の思いである」と
あります。「邪まな思い」とは、自分さ
えよければいいという、他者への思いやり
を忘れた考え方のことでしょう。

比叡山を開いた伝教大師最澄様に「忘
己利他」という言葉があります。「もう
こりた」と読みます。これも、自分のこ
とは後回しにして他人が喜ばれること
をしてあげる、それが仏様の行いで、そ
こに幸せが生まれるということです。

今年もいろいろなことがありました。
東日本大震災も二年目を迎えて被災
者を支える絆の輪が今も生まれていま
す。江川猥下も二日の終わり、一年の終



臨南寺 住職
大澤正道

わりに自らを反省し、邪まな思いに汚
されぬように努めたい」と書かれていま
す。来年も、思いやりの気持ちで暮ら
すことなく、毎日を幸せな気持ちで暮ら
していきたいと思えます。

皆様方にはよいお年をお迎えいただ
きますようご祈念申し上げます。

合掌



二月十五日には 釈尊涅槃会を 修します

二月十五日は、お釈迦様が入
滅された日です。

故郷をめざす旅の途中、自ら
の死が迫ったことを感じたお釈
迦様は、弟子に命じて沙羅双樹
の下に寢床を用意させ、頭を北
に右脇を下に両足を重ねて横
たわりました。そして弟子たち
に語りかけます。

「喜びも悲しみも、すべては移
ろいゆく。だからこそ弟子たちよ、
怠ることなく修行を続けなさい」

静かに目を閉じ、微笑を浮か
べたお釈迦様は、涅槃に至りま
した。涅槃とは「ニルヴァーナ」の
訳で、「吹き消す」という意味で
す。お釈迦様から火が消えるよ
うに煩惱が消え、解脱されたの
です。

臨南寺では本堂に涅槃図を
飾り、お釈迦様をしのんで「釈
尊涅槃会」を営みます。

臨南寺行事予定(一〜二月)

○ 弁財天祈禱会(本堂)

* 一月十五日 午前十時

新年を迎えて最初の年頭法要です。
新しい年がよい年になりますよう、厄
を払い福を授かる法要を催します。温
かい甘酒の振る舞いもごさいます。誘い
合わせてお参りください。



○ 釈尊涅槃会(本堂)

* 二月十五日 午後三時

お釈迦様が入滅された二月十五日、
涅槃に入るお釈迦様の姿を描いた涅
槃図を飾り、追慕と感謝の祈りをささ
げお釈迦様のご入滅をしのびます。法
要のあと涅槃だんごが振る舞われます。



* 一月二日〜三日は、寺務所は閉めさせてい
ただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販
売しております。

* 第二土曜日の早朝坐禅会と第二土曜日
の読書会は、二月はお休みさせていただきます。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時とな
っております。

マトリ合同法要が 十二月十八日に 催されました

がっしょう園マトリの合同法要が、
十一月十八日(日)午後二時から本堂で
営まれました。

法話は、今回から千葉県慈本寺副
住職の薄永大明師です。東日本大震
災の被災地の支援に何度も訪れて、
「人の温かみのありがたさ、人の和の
大事さを痛感した」と話されました。
法話を聞いたあとマトリに移り、読
経が続くなか、ご焼香していただきま
した。お墓の継承が難しい時代を反
映してか、永代供養のマトリへの申込
みが増えています。



慈本寺副住職の薄永大明師。

毎月1回の読書会に参加しませんか？

毎月第二土曜日、臨南寺では午後三時から読書会を行っていま
す。現在読んでいるのは『正法眼蔵随聞記』です。道元禅師の説法を
弟子の懐装禅師が書き留めたものです。
一人きりでは読み通すことも難しい書物
もみんなで読めば何とか読み切ることが
できそうです。

読書会にはお坊さんの皆さんも参加さ
れています。總持寺や永平寺での修行の
様子を聞くのも楽しみです。『随聞記』
も来年四月には読み終わります。その次何
を読むか、みんなで話し合っています。この
機会にあなたも参加されませんか？



読書会に参加されている皆さん。

年末年始のゴミは ゴミ用コンテナに 入れてください



十二月三十日～一月四日の間、
寺務所の向かいにゴミ用コンテ
ナを設置します。お墓まわりの
ゴミはすべてゴミ用コンテナに
入れてください。花や紙類だけ
でなく、缶や瓶もOKです。墓苑
を美しく清潔に保つていただき
ますようご協力をお願いします。

墓苑をご利用の皆様へ



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレペーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウェットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

編集後記

先日、富士五湖周辺のゴルフ場に出かけました。ふと振り返るといつも、雪をかぶった秀麗な富士山が巨大な姿で迫ってきます。そびえる山に神仏の姿を重ねた昔の人たちの気持ちが少しは理解できました。記事のご感想をお寄せください。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*一月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて
『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～

*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」37号

平成24年12月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com